クローズアップ 農家

国の根本である 農業を守る Vol. 3

手間を惜しまず育てる、きゅうり栽培

能代市二ツ井町種　畑山悦雄（はたやまえつお）さん（51）

JAあきた白神園芸部会長として、また【有限会社米道（まいど）ふたつい】の経営者の一人として、地域農業の振興に尽力する畑山悦雄さん。専業農家として25年目を迎え、現在水稲6ha、山うど70a、きゅうり13a（ハウス・露地）など様々な作物を栽培し、JAや直売所へ出荷しています。

「色々なものを栽培しているが、特にきゅうりは難しい。播種から収穫できるようになるまで約2ヶ月と短いが、生育管理や病害虫への防除など手間がかかる。でもそうしないと良いものは出来ない、早道はないんです。」

現在親子で栽培を行っている畑山さん。早くから野菜栽培を行ってきた両親から、様々な栽培のノウハウを学びました。しかし地区では就農者の高齢化と後継者不足で、栽培をやめてしまう農家が増えています。その状況を変えるため、畑山さんは7年前に有志2人と【(有)米道ふたつい】を立ち上げ、若い人が農業をしやすい環境をつくると共に、後継者の育成にも力を注いでいます。

▲手入れが行き届いたきゅうり畑

▼病害虫の防除に心掛ける